

部署単位での廃棄物処理費用の負担による廃棄物発生抑制

株式会社東芝 浜川崎工場（川崎市） 製造業

部署単位で廃棄物の排出量に応じて処理費用を負担

取組の意図、目的、始めたきっかけなど

様々に発生する経費を縮減し、限られた事業予算を有効活用するためには廃棄物処理費用の削減が大きな課題でした。従来は廃棄物の排出量・品目を事業所全体での把握であったため、具体的な削減対策を実施できていない状況でした。

そこで、部署ごとに具体的な削減対策を実施するため、各部署における排出量・品目を明らかにするとともに、廃棄物削減による成果を各部署に還元するため、廃棄物処理費用を部署単位で負担することとしました。



↑ 分別表の一例



↑ 専用の袋に部署名を記入



↑ 職場での分別の様子

取組の概要

■ 部署単位で廃棄物排出量を把握し、処理費用を見える化

東芝浜川崎工場では、2007年から部署単位で廃棄物の排出量・品目を把握して、その量に応じて廃棄物処理料金を負担する取組を実施しています。

その方法として、廃棄物を排出する場合は、各部署で分別した品目ごとに専用の袋に入れ、部署名を記載して排出します。後日、「排出した袋の枚数 × 袋の単価（品目ごとに異なる）」で算出された廃棄物処理料金を各部署で持つ事業予算（廃棄物処理費用を予め計上）から支出しています。

この方法により、部署ごとに排出した種類・量が把握できるとともに、節減効果も見えることになり、部署を単位とした具体的な廃棄物の減量等に取り組めるようになりました。

■ 廃棄物の減量等の成果を体感できる仕組み

この取組における各部署が負担する排出量あたりの処理料金については、焼却ごみを最も高く、その他紙類（紙箱、包装紙、感熱紙、コート紙など）やプラスチック製容器包装等の資源物を低額に設定しています。

焼却ごみと資源物の分別を徹底すること、排出量の減量化を進めることで、各部署で廃棄物処理以外に使える事業予算が増えるため、廃棄物の減量等の効果が体感できる仕組みになっています。

取組のポイント

廃棄物の減量等の取組は、本業と比べると社員間に意識の差が生じやすく、なかなか進みにくいものです。この取組では、排出量に応じて部署ごとに処理料金を負担することで「廃棄物排出量の削減と分別の徹底＝コスト削減」の意識が高まり、ごみの減量が推進されています。